

2.3 線形独立、基底、次元

例1

$c_1 v_1 + \cdots + c_k v_k \neq 0$ の中で、 v の中で一つでも 0 があれば与えられたベクトルは線形従属

例2

$$A = \begin{bmatrix} 1 & 3 & 3 & 2 \\ 2 & 6 & 9 & 5 \\ -1 & -3 & 3 & 0 \end{bmatrix}$$

この行列の **3** つの行を v_1, v_2, v_3 とすると $5v_1 - 2v_2 + v_3 = 0$ なので、線形従属

これは、方程式が解をもつための条件

例3

$$n \times n \quad I = \begin{bmatrix} 1 & 0 & 0 & \cdots \\ 0 & 1 & 0 & \cdots \\ 0 & 0 & \ddots & 0 \\ \vdots & \vdots & 0 & 1 \end{bmatrix}$$

の単位行列 の行は線形独立

行ベクトルを e_1, e_2, \cdots, e_n で表す

$c_1 e_1 + \cdots + c_n e_n = (c_1, \cdots, c_n)$ となるので、 c がすべて 0 の時以外は 0 ベクトルにならないから線形独立

$$v_1, v_2, \cdots, v_k \quad Ac = \begin{bmatrix} v_1 & v_2 & \cdots & v_k \end{bmatrix} \begin{bmatrix} c_1 \\ c_2 \\ \vdots \\ c_k \end{bmatrix} = 0$$

ベクトル がある場合、 が自明でない解をもつときにベクトルは
線形従属である

つまり、 A の階数が k であれば自由変数が存在せず、零空間も無くなる ($c = 0$ は除く) ので線形独立となる

階数が k より小さければ、少なくとも **1** つは自由変数が存在し、 0 でない値を選択することが可能なので線形従属となる (上記例1参照)

上記の場合で、ベクトル v の成分を m 個とした場合

$$Ac = \begin{bmatrix} v_{11} & v_{12} & \cdots & v_{1m} \\ v_{21} & v_{22} & \cdots & v_{2m} \\ \vdots & \vdots & \ddots & \vdots \\ v_{k1} & v_{k2} & \cdots & v_{km} \end{bmatrix}$$

このとき、 $k > m$ とすると階数はかならず k より小さくなる

よって $k > m$ の場合、ベクトルは線形従属でなければならない

例5

```
clear
A = [1,2,1;1,3,2]
```

```
A =
     1     2     1
     1     3     2
```

```
E21 = eye(2);
E21(2,1) = -1
```

```
E21 =
     1     0
    -1     1
```

```
U = E21*A
```

```
U =
     1     2     1
     0     1     1
```

2.3.1

```
clear
A = [1,1,0,0;1,0,0,1;0,1,1,0;0,0,1,1]
```

```
A =
     1     1     0     0
     1     0     0     1
     0     1     1     0
     0     0     1     1
```

```
E21 = eye(4);
E21(2,1) = -1
```

```
E21 =
     1     0     0     0
    -1     1     0     0
     0     0     1     0
     0     0     0     1
```

```
U1 = E21*A
```

```
U1 =
     1     1     0     0
     0    -1     0     1
     0     1     1     0
```

0 0 1 1

```
E32 = eye(4);  
E32(3,2) = 1
```

E32 =

1	0	0	0
0	1	0	0
0	1	1	0
0	0	0	1

```
U2 = E32 * U1
```

U2 =

1	1	0	0
0	-1	0	1
0	0	1	1
0	0	1	1

```
E43 = eye(4);  
E43(4,3) = -1
```

E43 =

1	0	0	0
0	1	0	0
0	0	1	0
0	0	-1	1

```
U = E43 * U2
```

U =

1	1	0	0
0	-1	0	1
0	0	1	1
0	0	0	0

この時、自由変数 $c_4 = 1$ とすると $-v_1 + v_2 - v_3 + v_4 = 0$ となり線形従属

2.3.2

```
clear  
A = [1,1;2,3;1,2]
```

A =

1	1
2	3
1	2

```
E21 = eye(3);  
E21(2,1) = -2
```

E21 =

1	0	0
-2	1	0

0 0 1

$$U1 = E21 * A$$

$$U1 = \begin{pmatrix} 1 & 1 \\ 0 & 1 \\ 1 & 2 \end{pmatrix}$$

$$E31 = \text{eye}(3); \\ E31(3,1) = -1$$

$$E31 = \begin{pmatrix} 1 & 0 & 0 \\ 0 & 1 & 0 \\ -1 & 0 & 1 \end{pmatrix}$$

$$U2 = E31 * U1$$

$$U2 = \begin{pmatrix} 1 & 1 \\ 0 & 1 \\ 0 & 1 \end{pmatrix}$$

線形独立

2.3.3

どれかが0ならば、正方行列なので必ず $k > r$ となり、自由変数が存在する。

よって線形従属となる

2.3.4

$$\begin{aligned} c_1 w_1 + c_2 w_2 + c_3 w_3 &= c_1 (v_1 + v_2) + c_2 (v_1 + v_3) + c_3 (v_2 + v_3) \\ &= (c_1 + c_2) v_1 + (c_1 + c_3) v_2 + (c_2 + c_3) v_3 \end{aligned}$$

ここで v は線形独立なので

$$c_1 + c_2 = 0$$

$$c_1 + c_3 = 0$$

$$c_2 + c_3 = 0$$

となるので、これを満たすのは $c_i = 0$ のみ

よって w も線形独立

例10

```
clear
U = [1,3,3,2;0,0,3,1;0,0,0,0]
```

```
U =
     1     3     3     2
     0     0     3     1
     0     0     0     0
```

列空間の規定は第1列と第3列

ピボットが0でない列

U の列空間は、この場合x-y平面となる

2.3.5

$$A = \begin{bmatrix} 1 & 2 \\ 3 & 6 \end{bmatrix}$$

列空間は $\begin{bmatrix} 1 \\ 3 \end{bmatrix}$ の乗数倍からなる直線

行空間は $\begin{bmatrix} 1 & 2 \end{bmatrix}$ と原点を通る直線

2.3.6

```
w1 = [1;0;0;0]
```

```
w1 =
     1
     0
     0
     0
```

```
w2 = [4;2;0;0]
```

```
w2 =
     4
     2
     0
     0
```

```
w4 = 7*w1 - w2
```

```
w4 =
     3
    -2
     0
```

2.3.7

基底ベクトルは $\begin{bmatrix} 1 & 0 \\ 0 & 0 \end{bmatrix}, \begin{bmatrix} 0 & 1 \\ 0 & 0 \end{bmatrix}, \begin{bmatrix} 0 & 0 \\ 1 & 0 \end{bmatrix}, \begin{bmatrix} 0 & 0 \\ 0 & 1 \end{bmatrix}$ になるこれならば、スカラー倍して足し合わせることで 2×2 行列の空間を再現することができる

2.3.8

たとえば

$$v_1 = [1, 1, 0]$$

$$v_1 = \begin{bmatrix} 1 & 1 & 0 \end{bmatrix}$$

$$v_2 = [0, 0, 1]$$

$$v_2 = \begin{bmatrix} 0 & 0 & 1 \end{bmatrix}$$

2.3.9

$v_1 = [1 \ 0 \ 0 \ 0], v_2 = [0 \ 1 \ 0 \ 0], v_3 = [0 \ 0 \ 1 \ 0], v_4 = [0 \ 0 \ 0 \ 1]$ は \mathbf{R}^4 の基底だが、 W が $[1 \ 2 \ 3 \ 4]$ を通る直線の部分空間だった場合、 v_i は W の基底にはならない

2.3.10

$$x = y = z = 0$$

$$x[1, 0, 0] = -y, z = 0$$

$$x[1, 0, 0], y = [0, 1, 0], z = [-1, -1, 0]$$

2.3.11

2.3.12

(i) 任意の線形独立な k 個のベクトルは基底を構成する

定理2Lから、もし基底でない場合、さらにベクトルを加えて基底にできるが、次元が k なのでそれを超えてしまうので成立しない

よって、任意の線形独立な k 個のベクトルは基底を構成する

(ii) V を張る任意の k 個のベクトルは基底を構成する

定理2Lから、もし基底でないならば、ベクトルを除いて基底にできるが、次元が k なのでそれより少ない集合では空間を張ることができない

よって、 V を張る任意の k 個のベクトルは基底を構成する

2.3.13

2.3.14